

令和6年度 蓮田ブランド推進協議会第3回会議録

| | | | |
|------------|---|--|--|
| 開催日時 | 令和7年2月13日（水） 午後1時30分～16時30分 | | |
| 開会場所 | 蓮田市役所 301 会議室 | | |
| 出席委員 状況 | 嶋田 清司 会長 小林 謙二 副会長 小林 央承 委員 田口 桐子 委員 加藤 達雄 委員 原田 三枝子 委員 | 阿部 彩夏 委員 時光 一郎 委員 櫻井 正道 委員 (欠席) 初野 尚久 委員 | (蓮田市) 柴田賢次 商工課長（司会） 倉田正彦 商工課主幹 木村大介 商工課主事 |
| 会議内容 | <p>1 開 会 柴田商工課長司会進行（午後1時30分から）</p> <p>2 会長あいさつ</p> <p>3 議 題 (1) 「とかいなか No.1」の今後について</p> <p style="padding-left: 40px;">各委員より議題の件について、意見を発表。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●●委員：はすびいをうまく活用し発信していく。また、市内企業に積極的に活用してもらうための方法を模索する。 ●●委員：今後については蓮田市のPRを続けていく事が大事。他のとかいなかと比べてここがNo.1という点があればそれを押し出してみる。 ●●委員：色々なターゲット層を広げてストーリーを展開していく。とかいなか No.1 蓮田ブランド認定証を発行する。 ●●委員：特産品の商品全般にラベルなどをつけ認定する。「ロゴ」「イメージ図」などの制作。 ●●委員：蓮田市の魅力や「とかいなか NO.1」の意味を伝えるストーリーを作成し周知していく。地元の企業や団体と連携し、共同で「とかいなか NO.1」をテーマにしたキャンペーンを展開することで、地元の飲食店で特別メニューを提供したり、観光施設での割引を行ったりすることが考えられる。 ●●委員：「商品を何か作るのか」、「毎年イベントを開催する」など具体的な実施をしていく。住民の方への「とかいなかNo.1」の認知度調査、「市内のおすすめできるもの」などアンケートを蓮田市民にとり、それを具体化する。 | | |

●●委員：「とかいなかNo.1」というキャッチフレーズはとても良いが、意味合いを理解できない人も多いのではと危惧する。サブタイトルをつけて具体的なイメージを持ってもらいやすくする。「とかいなかNo.1」のイメージをより具体化するためにシンボリックな「もの」が必要。蓮田の特産品、歴史、風土を活かした蓮田ブランド品（食品、工芸等）の開発。

●●委員：とかいなかの周知を強化する。ポスターやチラシを作成し、いたるところに設置。あなたにとってのとかいなかを募集。施設、人、自然などのとかいなかつぱいところを募集し、チラシなどに掲載。

●●委員：都市部に近く利便性の高い立地にありながら、自然豊かな蓮田市の状況を一言で表す素晴らしいキャッチコピー。今後も、このキャッチコピーを活かしながら、今期も蓮田市のブランド作りをしていく。

各委員の意見発表後、意見交換を行う。

●●委員：インスタ映えのスポットが1つでもあればそこに集る。ほかには、蓮田市をPRできるエッジの効いたムービーが作れば面白いと思う。小学校とタイアップし協力して面白い動画を繋げて市民の方がその動画に参加すると盛り上がると思う。

●●委員：インスタ映えスポットなど定着すると一つ当たればそれが繋がる。人が寄ってくるというのは悪いことではないと思うので、ホットスポットとか SNS の繋がりは一つのキーワードだと感じる。

(2) 委員の皆様からの自由意見

●●委員：とかいなかNo.1の活用を題材に協議検討を優先事項にしてブランド協議会として進めていければと思う。

●●委員：第2回の会議や11月の名所旧跡巡りに参加し、蓮田市の自然の豊かさや歴史的な魅力環境を蓮田ブランドの創出に活かしていくことが、とても大切ではないかと感じる。

●●委員：1か0で決めるのではなく、ゴール（とかいなかNo.1の活用）を決めて各委員たちが所属している組織で何ができるかを検討して各団体が連携して活動すればと思う。

●●委員：先日の市役所周辺の見学は、改めて市の魅力を再確認でき、とても有意義な企画。SAは防災拠点になっている事を初めて知った。

●●委員：ふるさと納税返礼品について、インフルエンサーや地元の有名人などに協力してもらって発信し広めていく。住みやすい環境の整備、子育て支援。子供が少ないからその教育の環境を充実させて若いファミリー層をターゲットにした

住みやすいまち作りをPR。公園とか遊び場とか保育施設の整備も重要。あと都心から近いのでテレワークやフリーランス向けの方の支援など。

- 委員：コスモス祭りも写真映えが素晴らしいと感じる。インスタ映えスポットをその時だけ作って、その写真をタグ付けなどで、お店の何%引きか安くなる、などのイベントをしたら盛り上がると思う。
- 委員：食を通した町おこしで成功している自治体がある。蓮田市も新たなものを作るというよりは、その風土に合った食材を利用した郷土料理などを活用すると町おこしに活かせると思う。蓮田ならではの食が考えられればと思う
- 委員：縄文時代から現在まで人が住んでいることを活かしたPR。縄文の遺跡があって、今も人が住んでいるということが一番の魅力だと感じた。縄文の食べ物を作るというのはもちろんいいと思うが、それだけで終わらせたくない。都会の部分をもそこに組み込めれば面白いのではないかな。

各委員の意見発表後、意見交換を行う。

- 委員：20年後の蓮田を考えるとという総合学習の授業が来年度は2校になる。子供たちの活動に「とかいなか」を絡める。子供たちの学習のきっかけになるような財産が蓮田市にはたくさんあるのでそれを活用していく。学校の活動のテーマがそのままブランドに繋がって発信していける。蓮田市は学習に力を入れていて面白いと思う。蓮田の人たちとか都会の人たちが自然を活用できなくてもったいないと感じる。
- 委員：非常に面白い取り組みだと思う。子供を通してというのは本当に有効なPR活動だと思った。お子さんが帰ってきたら家族と話をする。お子さんの世代からさらに上の世代、兄弟がいればその方にも情報が縦に繋がり、そこから友達に話をすれば横にも情報が繋がっていく。そういう体験ができ SNS やコミュニティなど横に広げられるのはかなり面白い話だ。
- 委員：今日は自由な意見を皆様からいただいた。内容について素朴な疑問やそこから発生した興味深い話も出た。先ほど●●委員から話が合った通り、ヒントになるキーワードがたくさんあった。割引、フォトスポットなどいろいろなヒントやワードが出たと思う。これを元に様々な提言を他の部署にも響くような提言ができればいいと考える。

事務局より、次回の会議日程（R7.5月頃）について案内。

(3) 清龍酒造株式会社 酒蔵見学

4 閉会 小林副会長の閉会挨拶により閉会（午後4時30分）